

予算決算常任委員会 総括質疑



動画はQRコードから

令和5年度の実績について

質問

令和5年度の一般会計予算額は8371億4035万円と過去最大であった。重視した取組実績について伺う。

知事

子どもの施策では、医療費の一部無償化。各自治体が行う施策支援。津波避難タワーの設置。医師・看護師の確保。観光はコロナ禍の前と比較して100%を超えたが、インバウンドは少ない。産業振興では、国内外でのトップセールスを行った。他にもスタートアップの対策、半導体、交通関係、人口減少対策、ジェンダーギャップの解消等にも取り組んだ。いずれも道半ばであるが、少しずつ対応している。

アドベンチャー ツーリズム

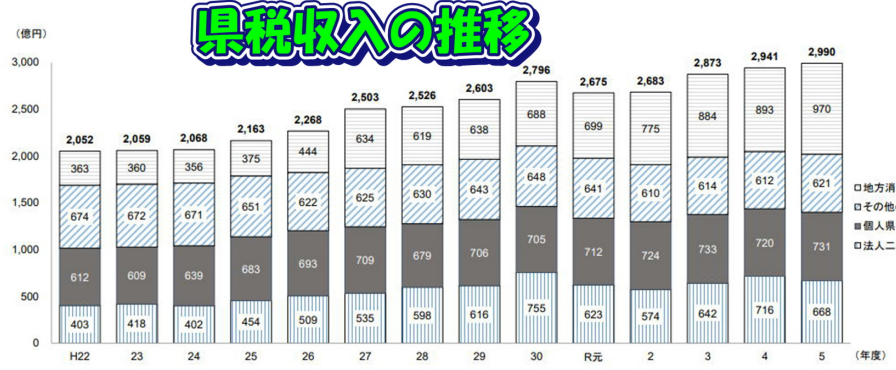


質問

観光庁の調査では、日本人1人当たりの年間消費額は135万円。定住

三重県の財政運営について

県税収入について



質問

令和5年度の一般会計歳入の自主財源は4705億7685万円で、歳入全体の53.4%、そのうち県税収入が62.5%を占めている。県税の予算現額は2746億8500万円であったのに対し、調定額は2967億3942万円で、約220億5400万円も当初予算を上回っている。県税収入の決算評価について伺う。

質問

県の合計特殊出生率は過去最低の1.29。転出超過数は年間5721人となるなど、結婚や子育て支援、移住、Uターン促進等の取組にもかかわらず、人口減少は加速している。生産年齢人口が減っていく中、地域の魅力を高め、地域の活力を維持していくために、一律ではなく、地域に応じたきめ細かな取組を進めていく必要があると考えるが見解を伺う。

人口減少対策

観光部長

本県は、神宮をはじめ、熊野古道伊勢路、海女、忍者といった、豊かな文化がある。どんな形でアドベンチャーツーリズムを進められるのか、しっかりと考えたい。

政策企画部長

県の将来予測人口の推計の準備をしている。地域により課題や優先順位も異なるため、対応に向けた形で議論を進めていきたい。

県債残高及び将来負担率について

質問

令和5年度末における一般会計と特別会計を合わせた県債残高は1兆4457億円で、前年比165億円減少し、平成21年度から令和5年度の数値では最高の財政指標となっているが、全国平均と比較すると、将来負担比率、実質公債費比率とも高い状況にある。県債残高の今後の状況について伺う。

総務部長

過去に発行した県債発行の影響で、全国的なものに比べると高い状況にあるが、国の基準と比べると大きなリスクはないと考えている。県債については、必要な事業費を確保する面と、将来世代に負担をかける面があることから、バランスに留意しながら、適正規模の発行に努めたい。

意見

県債は、防災対策や減災対策、社会基盤を整備する投資的経費には不可欠な財源であるが、残高が増え過ぎると将来、県債の償還や返済に予算が割かれ、政策的な事業への財源が減る心配がある。持続可能な財政運営をお願いしたい。

令和5年度決算の財政評価及び令和7年度予算編成について

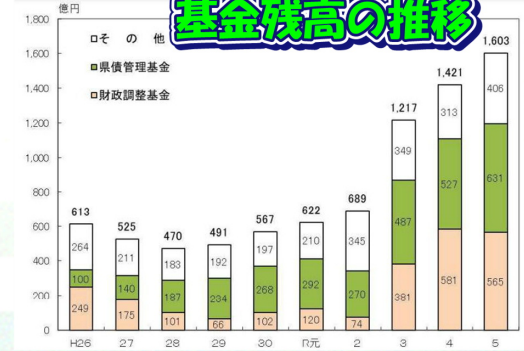
質問

令和5年度の県税収入、県債残高、財政調整基金の状況踏まえて知事の令和5年度決算の財政状況評価及び、令和5年度決算を踏まえ、令和7年度予算編成をどのように考えているのかあわせて伺う。

知事

民間の活動が活発で、個人の消費、法人の活動による

財政調整基金の状況について



質問

大規模災害、あるいは急に税収が減ってしまったということに備えるために、財政調整基金を確保することは、安定的な財政運営のために不可欠である。財政調整基金は565億4100万円で、昨年と比較すると15億2200万円減少している。財政調整基金についてどのような評価をしているのか。

総務部長

年度間の財源調整をすることで基金を積み立てている。5年ほど前は、非常に厳しい状況であった。そういう状況から比べると、一定の金額は積み立てられていると思っ

る。税収増があり、徐々に県の財政が良くなっているが、今後は社会保障費の伸びや公共施設の老朽化に伴う対策費が必要となる。さらに国の防衛費上昇により、地方交付税への影響の可能性もある。将来的な見込みは決して楽観できるものではない。

令和7年度も産業の育成、企業誘致、人口減少対策、子どもの施策、命を守る取組等、集中と選択を継続的にやっていくしかない。